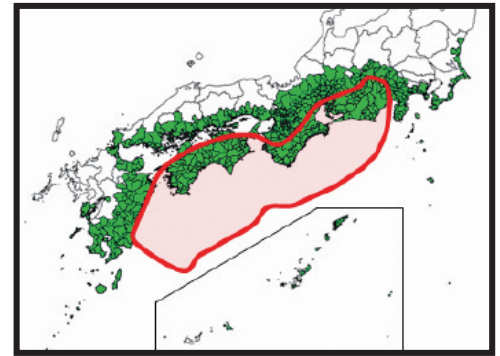


南海トラフ地震に備えましょう！！

●南海トラフ地震とは

南海トラフ地震とは、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域とした大規模地震です。概ね100～150年間隔で大規模地震が繰り返され、1944年には昭和東南海地震、1946年には昭和南海地震が発生しました。既に70年が経過し、次の南海トラフ地震が、いつ起きてもおかしくありません。この防災ハザードマップで、揺れやすさ・液状化・津波等について確認しましょう。あわせて、家具・家電を金具等で固定し、地震に備えましょう。

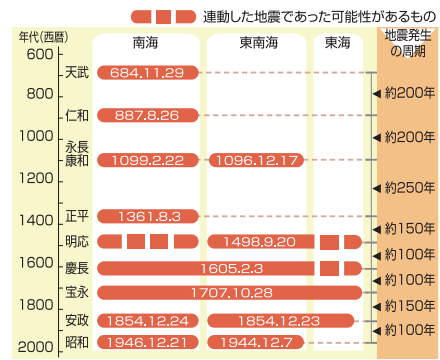


南海トラフ地震防災対策推進地域

(緑色に塗られた領域、赤線で囲まれた領域は南海トラフ巨大地震の想定震源域、内閣府資料に一部加筆)
「南海トラフ地震防災対策推進地域」(気象庁ホームページより)

●瀬戸内市ではどのくらいの被害になるの？

南海トラフ巨大地震が発生した場合、最悪の想定では、市域に最大震度6弱の揺れをもたらします。地震発生約2時間後から沿岸部を中心に、最大2.8メートルを超える津波が来襲します。地震や液状化・津波により、死者・負傷者約300人、建物約4,000棟に及ぶ被害が想定されています。津波到達時間は、あくまで目安であり、地震発生後すみやかに避難してください。



※宇佐美(1996)、郡司(1999)、地震調査委員会(2001)より

南海トラフ沿いで過去に発生した地震

地震の揺れと被害想定

震度 1～2 	わずかに揺れを感じる人がいる。吊り下げたものがわずかに揺れる。	震度 5強 	歩くことが難しい。固定されていない家具や補強されていないブロック塀が崩れることがある。
震度 3 	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。	震度 6弱 	立っていることが困難。耐震性の低い木造建築物には倒壊や損壊するものが出てくる。
震度 4 	ほとんどの人が驚く。食器などは音を立てて、置物が倒れる。	震度 6強 	はわないと動くことができない。耐震性の低い建物では倒壊するものが多い。
震度 5弱 	大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。食器が落ちる。	震度 7 	耐震性の高い建物でもまれに傾くことがあり、耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では倒れるものが多くなる。